

ジーエス・ユアサ コーポレーション (コード 6674)

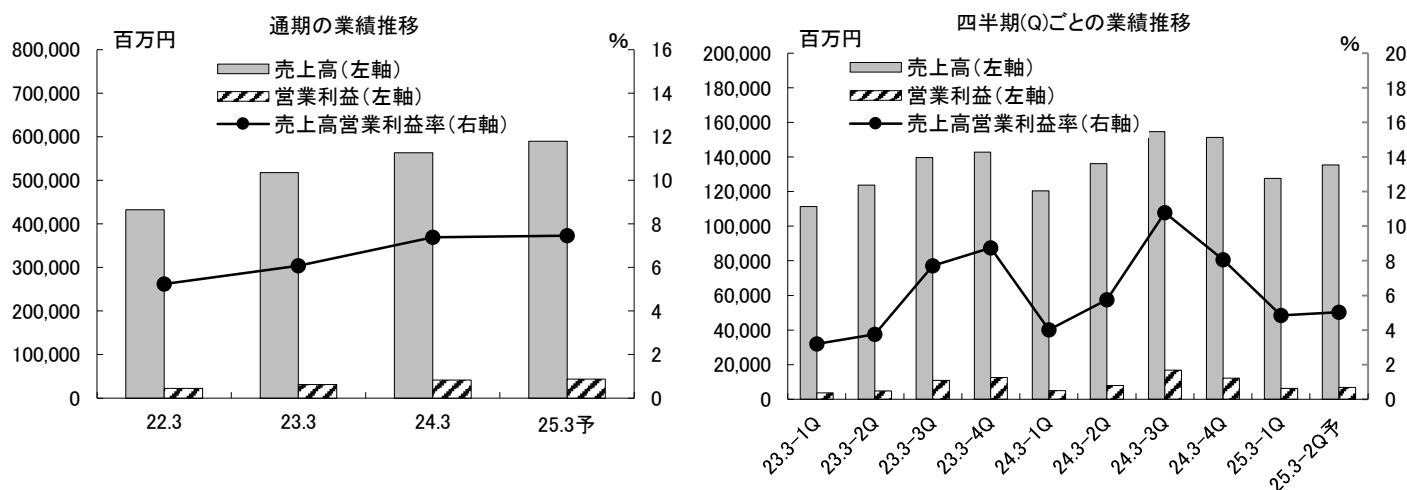
◆各決算期の第1四半期業績推移(連結)(第1四半期のCFの発表無し)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	95,458	3,210	33.3	—	—	—	—	—
23.3	111,429	3,570	7.6	—	—	—	—	—
24.3	120,540	4,836	20.5	—	—	—	—	—
25.3	127,583	6,184	47.7	—	—	—	—	—

◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	432,133	22,664	105.2	50.0	12,879	▲30,204	5,203	25,845
23.3	517,735	31,500	173.1	50.0	28,330	▲26,567	8,826	36,027
24.3	562,897	41,595	369.7	70.0	63,180	▲46,192	3,480	60,307
25.3 予	590,000	44,000	259.2	70.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年3月期の第1四半期業績概況…25年3月期の第1四半期(24年4~6月)は、主に国内・海外での自動車電池の販売数量が増加していることに加え、売価見直しを進めていることなどにより、売上高が前年同期に比べて約6%、営業利益が約28%それぞれ増えた。

当四半期の売上高は1,275億8,300万円(前年同期比5.8%増)、営業利益は61億8,400万円(同27.9%増)、経常利益は66億8,600万円(同35.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益(以下、四半期純利益)は47億8,500万円(同190.1%増)となった。経常利益については持分法による投資利益7億6,400万円(同262.1%増)や正味貨幣持高による利得3億4,200万円(同470.0%増)の計上など、四半期純利益については海外子会社の繰延税金負債の取り崩しに伴う税金費用の減少などにより、営業利益に比べてそれぞれ増益率が大きくなった。

セグメント別の売上高については、自動車電池国内が208億3,600万円(同6.3%増)、自動車電池海外が651億7,500万円(同11.7%増)、産業電池電源が195億3,800万円(同9.1%増)、車載用リチウムイオン電池が160億7,200万円(同17.4%減)、その他が59億5,900万円(同14.4%増)となった。また、セグメント別の営業利益(のれん等償却前)については、自動車電池国内が16億3,000万円(同58.5%増)、自動車電池海外が48億800万円(同74.1%増)、産業電池電源が9億4,600万円(同521.1%増)、車載用リチウムイオン電池が20億3,100万円

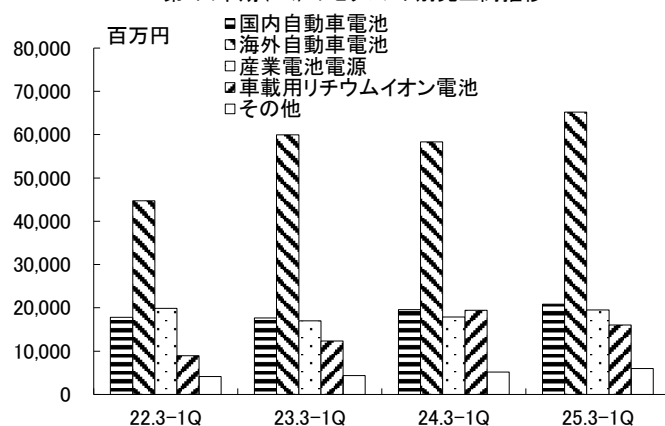
の損失（前年同期は4億3,700万円の黒字）、その他（全社費用等調整後）が10億500万円（前年同期比77.6%増）となった。

国内自動車電池では、新車向けは自動車メーカーの操業停止などによる販売数量減を売価見直しがカバーして売上増となり、補修向けについても販売数量が増加し、増収増益になった。海外自動車電池については大幅な増収増益となり、東南アジアでは戦略拠点のタイ・インドネシア・ベトナムの全てにおいて自動車用、オートバイ用の販売数量が大きく増加。需要の旺盛な欧州では、生産拠点のトルコでのリラ安を背景とした競争力のある自動車用電池の販売数量が堅調に推移し、売価見直しや為替の影響も加わって売上が増加。豪州では「メイド・イン・オーストラリア」の風潮による販売数量増や売価見直し、為替の影響によって売上が増加した。産業電池電源については、常用が前期末の期ズレ案件の納入で売上増となり、非常用では官公庁・原子力向けの好調に加えてデータセンター需要拡大による販売数量増によって堅調に推移。フォークリフト用は売価見直しによって売上が増加した。車載用リチウムイオン電池については減収・赤字となり、ハイブリッド車用ではホンダ向けを中心に販売数量が増加したもののリチウム市況下落を受けて売上が減少。プラグインハイブリッド車用は現行納入車種の販売終了（なお、下期から新たな車種向けに納入へ）の影響で販売数量が大きく減少した。その他については、航空機用リチウムイオン電池では、販売数量が新設向けで増加したものの、エアライン（補修）向けがコロナ禍後の取替需要の一巡で減少。潜水艦用リチウムイオン電池については、契約単価見直しにより売上が増加した。

25年3月期の業績見通し…25年3月期の通期業績については24年5月10日時点での会社発表値から変更は無く、売上高5,900億円（前期比4.8%増）、営業利益440億円（同5.8%増）、経常利益440億円（同0.04%増）、親会社株主に帰属する当期純利益260億円（同18.9%減）の見通し。セグメント別の売上高予想は、自動車電池国内1,000億円（同6.3%増）、自動車電池海外2,590億円（同2.4%増）、産業電池電源1,200億円（同9.4%増）、車載用リチウムイオン電池900億円（同6.1%増）など。また、営業利益予想は、自動車電池国内80億円（同0.9%減）、自動車電池海外165億円（同9.1%増）、産業電池電源130億円（同1.4%減）、車載用リチウムイオン電池40億円（同51.0%増）などとなっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなされますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。

第1四半期(1Q)のセグメント別売上高推移



第1四半期(1Q)のセグメント別営業利益推移
(23.3から、のれん等償却前の数値)

